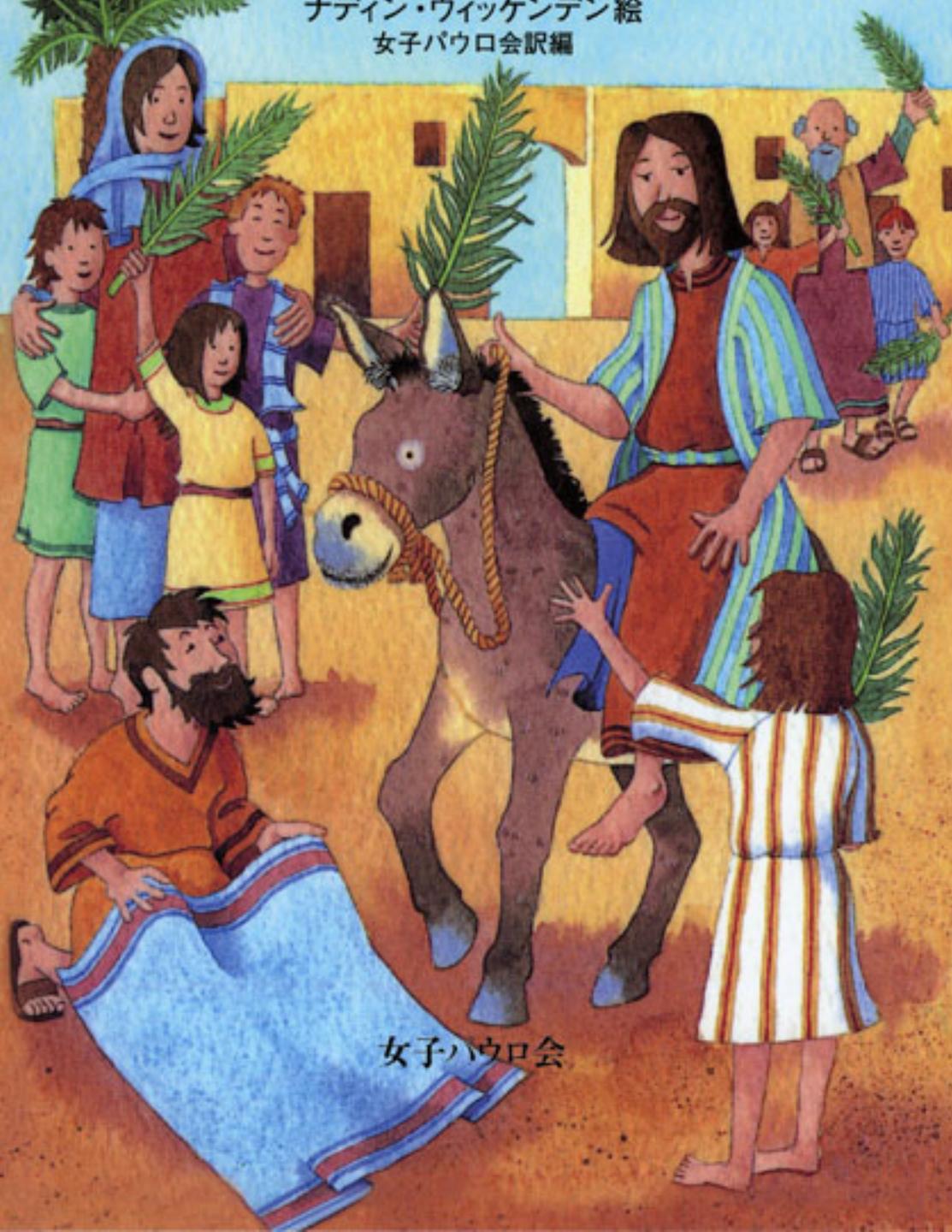


イースター物語



ボブ・ハートマン著
ナディン・ウィッケンデン絵
女子パウロ会訳編



女子パウロ会

イースター物語

ボブ・ハートマン著
ナディン・ウィッケンデン 絵
女子パウロ会訳編

女子パウロ会

A STORYTELLER BOOK EASTER STORIES
by BOB HARTMAN

Text copyright © 2005 Bob Hartman
Illustrations copyright © 2005 Nadine Wickenden
Cover illustrations copyright © 2007 Susie Poole

Original edition published in English under the title Lion Storyteller Easter Book
by Lion Hudson plc, Oxford, England,
Copyright © Lion Hudson plc 2007

Japanese translation published by arrangement
with Lion Hudson plc, Oxford, England
through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo

Published 2008 in Japan by Joshi Pauro-Kai
© Joshi Pauro-Kai

イースター物語

もくじ

はじめに……7

- 1 イエスさま、ロバに乗って山をおりられる……9
- 2 イエスさま、^{しんでん}神殿にある台をたおされる……13
- 3 ぶどう園とぶどう園ではたらく人、
ユダヤの^{さいし}祭司長や学者たち……17
- 4 ^{ぜいもん}税金をどうする？……22
- 5 ラクダと小さな虫と きたないおわん……27
- 6 数えてみよう……32
- 7 ひみつの話……36
- 8 ごちそうと ほこりだらけの足……39
- 9 ^{きねん}記念の食事……42
- 10 ねむい、ねむいベトロ……46
- 11 夜の間、こっそりさいばん……50
- 12 大あわてのベトロ……53

- 13 ひどい しうち……56
 - 14 気の休まらない、そうとくのピラト……60
 - 15 かんむりと^{じしつか}十字架の王さま……65
 - 16 イエスさま、十字架につけられる……69
 - 17 もういいかげんにしてくれ……73
 - 18 うれしい朝……77
 - 19 歩いたり、話したりして
……そしてびっくり！……81
 - 20 ゆうれいなんかじゃない……85
 - 21 ほくは、そんなこと信じない！……89
 - 22 漁に出るベトロ……92
 - 23 山よりも、もっと、もっと高く……99
- 読み聞かせのヒント……102

はじめに

わたしにはわからなかったのです。さっぱり理解できなかったのです。いつの復活祭でも同じでした。枝の主日に、わたしたちは教会に行き、ユダヤの群衆がイエスを王として、歓呼のうちにむかえたことを祝ってきました。そのたった5日後に、同じように教会に行き、かしくまって同じ席にすわり、群衆がイエスの死をのぞむようになったいきさつを思い起こしたものでした。

何が起こったのでしょうか？ 何が失敗だったのでしょうか？ なぜ、彼らはイエスを殺そうとしたのでしょうか？ 子どものころ、この疑問が、わたしの中を駆けめぐっていました。そこで、この本を書こうと思ったのです。本書を読んだり、読み聞かせてもらったりする子どもたちが、何らかの答えを見つけてくれれば幸いです。

物語作家としての長い経験から、イエスの受難と死を語ることは、たしかに聖書の中でも、もっともむずかしいことだということがわかりました。そこでわたしは、イエスの最後の週における軽い話や、ゆかいでこっけいなものをも取り出して書き直しました。とくにイエスとユダヤの祭司長や律法

学者たちとのやりとりはユーモアに満ちています（彼らはそうは思いませんでしたが）。この本の終わりに、簡単な身ぶりなどによって、子どもたちが楽しめるようなヒントをのせています。とはいえ、これは処刑へと向かう人の物語であることは、まぎれもない事実です。ですから、十字架^{くわじやう}上での死というあの深刻で厳肅^{げんすう}なときへと物語が進むにつれて、それを和らげるために単純なテーマを紹介し、くふうをこらしました。

もちろん、この物語には、喜び祝う機会もたくさんあり、復活したイエスが弟子たち^{でし}にあらわれた物語も加えてあります。イエスが復活してあらわれたときに、弟子たちの感じたおどろきや畏敬の念を、読者や聞き手の皆さんにいくらかでも経験していただくためです。

家庭で、あるいは学校や日曜学校のクラスで、子どもたちといっしょに読むときも、また、あなた自身が単純に読むときも、エルサレムの山をくだり、ご自分の死に向かって他の山をのほり、さらに山から天へのほられた方の旅路、ならびに復活節（イースターシーズン）をもっとよく味わうために、本書がその一助となることを願っています。

ボブ・ハートマン

イエスさま、 ロバに乗って山をおりられる

「ロバがほしい。」イエスさまは弟子たちにいわれました。

「ロバがほしい。」（ロバが鳴くよ。「ヒーホー！」）

「ロバのかい主が、何のために入り用なのか、とたずねたら、イエスさまがロバに乗って山をおりるために、必要なのだ。イエスさまがロバに乗って山をおりるために、といいなさい。」

そこで、イエスさまの弟子たちは、ロバをさがしに行きました。

弟子たちはロバをさがしに行きました。（ヒーホー！）

かい主に聞かれると、いわれたとおりに答えました。

「イエスさまは、ロバに乗って山をおりなければならないのです。」



「イエスさまは、ロバに乗って山をおりなければならぬのです。」

弟子たちはロバの上にマントをかけました。

鞍くらではなくて、マントを。(ヒーホー！)

イエスさまは、ロバに乗ってエルサレムへと向かわれました。

イエスさまは、ロバに乗って行かれました。

イエスさまは、ロバに乗って行かれました。

ロバに乗っておられるイエスさまを見て、人びとはおどろきました。

ロバに乗っておられるイエスさまを見て。(ヒーホー！)

そのとき、預言者よげんしゃのしたやくそくを思い出しました。

ロバにまたがって、山を行かれる王さまのことを。

ロバにまたがって、山を行かれる王さまのことを。

それで、ロバに乗っておられるイエスさまを見て、

人びとはよろこびの声をあげました。

人びとはよろこびの声をあげました。(いいぞー！)

「ホザンナ！ 主よ、わたしたちをすくってください」とさげびました。

イエスさまが、ロバに乗って行かれるときのことでした。

イエスさまが、ロバに乗って行かれるときのことでした。

大ぜいの人々が、ロバの進む道に自分たちのマントをしきました。

しゅろのえだもしきました。(いいぞー！)

イエスさまを、王さまのようにおむかえしました。

イエスさまが、ロバにゆられて山を行かれるときのことでした。

イエスさまが、ロバにゆられて山を行かれるときのことで

した。

けれども、ユダヤの国の祭司長さいしちゆうや学者たちは不平をいいはじめました。

おこって、口ぎたなくののしりました。(ぶつぶつ！ ぶつぶつ！)

「おまえは王なんかじゃない。おまえがとくべつな人間だなんて、とんでもない。」

イエスさまが、ロバに乗って山をおりられるときのことでした。

イエスさまが、ロバに乗って山をおりられるときのことでした。

「すきなように、何とでもいいなさい。」イエスさまは祭司長や学者たちに向かってさげびました。

「あなたたちは、ロバのようにがんこだ！」(ヒーホー！)

「もし道ばたのこれらの石が話せるなら、石は人びとといっしょにさげぶだろう。」

ロバにまたがって山をおりられる方に、よろこびのさげびをあげるだろう。

ロバにまたがって山をおりられる方に、よろこびのさげびをあげるだろう。」

イエスさま、 神殿しんでんにある台をたおされる

イエスさまはエルサレムに着くと、さいしょさいしょに神殿しんでんへ、おいのりに行かれました。そこで、とても悲しいことをごらんになったのです。

神殿には、神さまをおがむために、遠くからやってきたまじしい人たちがいました。いちばんいいハトをもってきて、かんしゃのしるしとして、そのハトを神さまにささげようと思っていました。

けれども、神殿ではたらいっている人たちは、そうさせてくれませんでした。

神殿の人たちはいいました。「たいへん気のどくだが、あなたたちのハトは、神さまにさしあげられるようなものではないんだよ。だから、『とくべつ』な神殿用のハトを買わなければいけないだ。」